

そのうちカメルーン、中央アフリカ共和国、エクアドル、ケニア、パキスタン、ペルー、ルワンダおよびオートボルタの8か国が欠席し、19か国の参加をもって行なわれた。縮は日本政府代表として出席し、在ジュネーブ国際機関日本政府代表部金田伸二一等書記官が代表を補佐した。

第15回人口委員会の議長には、日本の指名により Miss Mercedes Concepción (フィリピン) が選出された。また、副議長には Mrs. Vladimir Wynnyczuk (チェコスロバキア)、K. T. de Groft-Johnson (ガーナ) および A. Chandra Sekhar (インド) が、ラポターには Mr. Mogens Boserup (デンマーク) がそれぞれ選出され、これら役員の下に議事は進行した。会議の内容は本誌次号(第114号)に詳細を掲載の予定なので、ここには Agenda を次掲するにとどめる。

1. Election of officers
2. Adoption of the agenda
3. Promotion of improvement in demographic statistics
4. Report on the progress of work
5. World population situation
6. Demographic projections and economic and social development
7. Measures and policies affecting fertility, with particular reference to national family planning programmes
8. Substantive aspects of enlarged programmes of technical co-operation in regard to population matters
9. Report on the question of holding of a third world population conference
10. Five-year and two-year programmes of work
11. Adoption of the report of the Commission to the Economic and Social Council

なお、縮は、国連人口委員会出席後、同年11月18日、在パリ経済協力開発機構(O. E. C. D.)本部において開催の経済協力開発機構開発センター主催「第2回人口分野における援助者会議」(Second Conference of Aid Administrators)、ならびに11月19・20両日にわたり、同所において引き続き開催された同開発センター主催「人口における援助関係に関する会議」(Conference of Aid Relations in Population)に、それぞれ日本からのオブザーバーとして出席した。(縮 稔記)

国際連合人口委員会委員日本政府代表の交替

縮 稔所長は、1957年12月17日国際連合人口委員会日本政府代表に任命され、爾来第10回(1959年)、第11回(1961年)、第12回(1963年)、第13回(1965年)および第15回(1969年)の人口委員会に出席され、人口の分野における国際連合の活動に対し、日本政府代表として幾多の重大な貢献を果たされてきたが、1970年1月1日付をもって黒田俊夫人口移動部長が縮所長と交替し、日本政府代表を外務大臣から委嘱された。なお、第14回(1967年)の人口委員会には、黒田が日本政府代表代理として出席した。

(黒田俊夫記)

インドネシア人口・家族計画協力実施調査団の活動

日本政府の「インドネシア人口・家族計画協力実施調査団」は、本研究所縮 稔所長を団長とし、厚生省大臣官房企画室竹村宏之室長補佐、国立公衆衛生院衛生人口学部村松稔人口衛生室長、同じく荻野博家族計